

## 「お父さんの大きなあたたかい手」

大阪府 大阪信愛女学院小学校 二年 中田 ゆめの

わたしのお父さんは、とてもやさしくて、大きなあたたかい手をしています。わたしは、そんなお父さんの手が大きいです。

この間、わたしがねつを出した時の話です。とても高いねつで、わたしがぐったりしていると、お父さんがわたしをだいて、お母さんと一しょにびょういんへつれて行ってくれました。びょういんからかえって来ると、お母さんがのみものをよういしている間に、お父さんがベットにわたしをよこにしてくれました。そして、大きな手をわたしのおでこにあてて、

「ねつよ、ねつよ。とんでけえ。」

とおまじないをしてくれました。

そしたら、ふしぎなことに、体が楽になって来ました。

その夜も、お父さんとお母さんは、わたしのおでこをなん回もひやしてくれました。

それに、だるくなったらわたしの足を、お父さんがずっともんでいてくれたのです。

わたしはその時、

（お父さんもおしごとでつかれているのに、ねないでわたしのかんびょうをしてくれて、やさしいなあ。）

とおもいました。

ねつはすぐに下がって、すっかり元気になりました。

お父さんが、

「元気になってよかったね。」

とニッコリしながら言いました。わたしはうれしくて、おもわずお父さんにだきつきました。

その時のお父さんの手も、あたたかくて大きくかんじました。

もしお父さんがねつを出したら、今どはわたしがお父さんのおでこに手をあてて、おまじないをしてあげたいです。

そしてわたしはこうおもいました。

わたしは大きくなっても、お父さんと手をつないで歩きたいなあ。大きなあたたかい手で、一ぱい一ぱいだっこしてほしいなあ。

お父さん、いつもわたしを見まもっていてくれてありがとう。